

電気のふるさと

特集

「協働」と「連携」によるまちづくり◎

～宮城県石巻市の合同会社「オーガッツ」の6次産業化の事業～

新しい漁業を目指す！

瓦礫の中から立ち上がった漁師たちの挑戦

■わがまち自慢 ～市長室から～
青森県むつ市

■電源地域情報ひろば
平成24年10・11月のイベントカレンダー

■電源地域振興トピックス
災害からの復興を目指す各地の取り組み

■センター活用術 ～活力ある地域づくりに向けて～
茅葺きの集落景観保全活動を核とした地域づくり
新潟県柏崎市 荻ノ島集落

■センター掲示板

■第3回「電気のふるさと」フォトコンテスト 開催のご案内

わがまち自慢

～市長室から～

青森県むつ市
みやしたじゅんいちろう
宮下順一郎 市長



市政を預らせていただいて5年目に入りました。「まちづくりの主役は市民の皆さん」という基本理念※1のもと、就任以来取り組んでいる「お出かけ市長室」では、これまで約2,000人の市民の皆様からご参加をいただき、たくさんのご意見を市政に反映させることができたと思っております。また、懸案でありました「赤字財政の脱却」と「庁舎移転」についても、評価をいただくことができたと思っております。

当市の自慢ということですので、**三**数ある中から2つの「自慢」をさせていただきます。就任以来、力を入れているもののひとつに「むつ市のうまいは日本一！」※2があります。これも、私の基本理念のひとつですが、地産地消運動を柱にフェアの開催や新商品の開発に対する支援など、地場産品の積極的な消費推進による第一次産業の振興と地域経済の活性化に取り組んできました。

下北弁に「えふりこぎ」という言葉があります。「ええかつこしい」とか、「見栄っ張り」という意味です。しかし、逆にこちらの住民性としては、良い意味では「奥ゆかしい」というか、「謙虚」といいますか、あまり自己主張をしない傾向がありますが、私は、美味しいものがたくさんあるのに、それをもっと自慢してよいのではという思いがありました。

その意味で、市内外に向けた「PR力」が不足しているのではな

いか、ということで「ムッシュ・ムチュランⅠ世」というキャラクターをつくり「自慢の産品」の売り込みを図ることとしました。北側にある釜臥山かまふせやまからみたむつ市の夜景はアゲハ蝶の形をしています。その姿に誘われて、「美食星」から来た王様という設定にしたわけです。このキャラクターは、市民の間にも定着してきており「ムチュリー」と結婚して今ではⅡ世もいます。

昨年3月、東京・江東区にあるかめいどかどりがちうん亀戸香取勝運商店街の一角に、「元気むつ市応援隊」の応援プロデューサーが手がけるアンテナショップ「あおもり物産ショップ・むつ下北」がオープンしました。産品販売とともに、積極的に当地域の情報発信をしていただいております。本年5月には商店街と連携した当市産品のPRイベント「むつ市のうまいは日本一！ in 亀戸「むつとの遭遇」」を開催させていただきました。江東区の区長も来られて新たな交流が始まり、この10月にも亀戸香取勝運商店街と連携したイベントを開催する予定です。

こうした中で、3つの漁協が協議会を立ち上げ、「産直プラザ」を本庁舎の一角に設置し、月1回の夕方市の開催や、新たな水産加工品を作る動きも出てきました。また「下北ワイン」は「下北ブランド」の先駆けともいえるもので、農家が農事法人を立ち上げ、ワイン用のブドウを栽培し、民間企業がワイナリーを作

り、試験栽培から足かけ10年をかけて、待望のワインができたものです。

市内の企業に企業力を高めていただく「企業連携強化事業」※3という取り組みも推進しております。これは下北・むつ市の地域企業の技術力を高め、地域内のエネルギー関連事業への参入促進と人材育成を図ることを目的とするものです。事務局を市産業政策課に置く「下北・むつ市企業連携協議会」を立ち上げ、企業の従業員や一般市民を対象に、放射線関連の国家資格の取得を目指した「受験対策講習会」を開催してきました。

難関といわれる「第2種放射線取扱主任者試験」では、一昨年と昨年で25名の合格者が出て、中には高校生の合格者もいます。これが2つ目の自慢です。

着実に人材が育ち、企業力がアップしていると感じております。市全体に、こうした「放射線取扱主任者」や「非破壊試験技術者」といった資格を取得する気運が高まってきており、小中学生の放射線を活用した先端産業や原子力関連研究施設への訪問といった人材育成を含め、エネルギー関連産業への関与をより積極的に推進しております。（談）

※1 むつ市政の基本理念

むつ市は「希望のまち・むつ市」の実現に向けて、「持続可能な財政運営」と、50年後の市制100周年を目指す「ネクスト50へのさらなる基盤づくりと飛躍」、「市民協働・参画の社会づくり」の3つの柱を市政の基本としている。図はむつ市のキャラクター「ムッシュ・ムチュランⅠ世」の家族。



※2 「むつ市のうまいは日本一！」推進事業プロジェクト

むつ市における一次産品の地産地消を推進すると同時に、首都圏での販売・情報発信や産品の加工販売など、第一次産業の振興と地域経済の活性化を目指す。代表的な産品は「脇野沢のマダラ」「一球入魂カボチャ」「下北ワイン」「海峡サーモン」「夏秋イチゴ」など17品目。写真はその一環として開催した東京・亀戸香取勝運商店街でのイベント。



※3 企業連携強化事業

下北・むつ市の地域企業が技術力を高め、地域内のエネルギー関連事業への参入促進と人材育成を図ることを目的とする事業。写真は放射線関連の国家資格の取得を目指した「受験対策講習会」の様子。



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり②

宮城県石巻市の合同会社「オーガッツ」の6次産業化の事業

新しい漁業を目指す！ 瓦礫の中から立ち上がった漁師たちの挑戦

全国を震撼させた東日本大震災から1年半、壊滅的な打撃を受けた「世界に誇る南三陸の水産業」の復興に向けて、瓦礫の中から立ち上がった漁師たちがいる。石巻市の合同会社「オーガッツ」の面々だ。今回は、震災を機に、「6次産業化」をキーワードとして水産業とまちの『創造的復興』を目指す漁師たちの集団を紹介する。



【写真】
上：壊滅的な被害を受けた石巻市の日和山から見た光景
中央左：合同会社「オーガッツ」の人々
中央右：養殖はホタテ、カキ、ワカメ、ホヤ、銀鮭がメイン
下左：雄勝湾で収穫される甘味の強いカキ
下右：銀鮭は石巻市と女川町でほとんどが収穫される

■平成22年度海面漁業漁獲量・養殖業種別収穫量・主要漁港水揚高 単位:トン

順位	漁獲量	主要漁港 水揚高	カキ養殖収穫量 殻付 むきみ	ホタテ養殖 収穫量	ワカメ養殖 収穫量	銀鮭養殖 収穫量
1	石巻市 114,743	銚子港 214,240	呉市 26,459 4,785	平内町 38,714	南三陸町 8,864	女川町 8,266
2	稚内市 107,503	焼津港 200,915	江田島市 25,505 4,612	八雲町 28,864	宮古市 6,316	石巻市 3,716
3	東京・特別区 106,279	石巻港 130,288	石巻市 24,583 2,458	森町 26,442	気仙沼市 5,938	
4	根室市 100,199	長崎港 124,081	広島市 22,915 4,144	青森市 18,414	鳴門市 5,356	
5	神栖市 97,012	松浦港 123,793	廿日市市 17,418 3,150	長万部町 15,551	大船渡市 5,253	
6	焼津市 94,726	八戸港 119,474	備前市 10,746 2,388	鹿部町 11,546	石巻市 4,428	
7	釧路市 92,675	境港港 118,535	瀬戸内市 7,950 1,687	外ヶ浜町 11,238	釜石市 3,435	
8	南伊勢町 81,020	釧路港 113,990	南三陸町 5,278 528	豊浦町 8,516	南あわじ市 2,212	
9	八戸市 79,583	気仙沼港 103,609	坂町 4,571 827	むつ市 6,314	陸前高田市 2,143	
10	函館市 65,506	枕崎港 103,032	大竹市 4,525 818	蓬田村 5,736	小松島市 927	
11	北茨城市 63,176	根室港 100,065	女川町 4,271 427	石巻市 5,173	山田町 878	
12	沼津市 62,749	福岡港 99,537	鳥羽市 4,158 640	女川町 4,503	大槌町 828	

三陸沿岸地域

水産庁の統計資料および時事通信社資料より作成

『全滅』の危機に瀕した石巻の養殖業

平成22年度の宮城県石巻市の海面漁業漁獲量は、左表にあるように全国第1位、そのうち養殖漁獲量は全国2位、漁港の水揚量は全国3位となっている。文字通り、石巻市は日本一の水産都市であった。

特に、旧北上町から旧雄勝町、女川町、旧牡鹿町のある牡鹿半島および石巻湾にかけて連なるリアス式海岸の入江では、深い水深を利用したカキ、ホタテ、ワカメ、ホヤ、ノリ、銀鮭の絶好の養殖場となっていた。

「3・11」、この全国屈指の養殖漁場を3連動となった巨大津波が襲った。それは半島部の東側で平均20m、西側で8〜10mの高さとなつて、養殖棚を粉碎し、ほとんどの家屋を流出させた。地震によつて牡鹿半島は東へ5m移動し、半島東側の各漁港は破壊され、突端の鮎川浜の地盤は1.5m沈下、西側の石巻湾の渡波地区でも1m沈下した。

「6次産業化」を目指す新しい経営体を設立

「石巻市の海面漁業は壊滅的な被害を受けました。養殖業はまさに全滅と言つてよいでしょう」と石巻市産業部水産課の及川伸悦課長補佐は語る。市が震災後に実施した聞き取り調査では、約1,200あった経営体のうち、約2割の漁家が廃業すると答えたという。

「全滅」という言葉は現実的な響きを持つている。

石巻市の中心部から東へ車で約30分にある旧雄勝町は宮城県の中でも降水量の多いところだ。そのためか雄勝湾の海底から真水が湧き出ており、ここで養殖・生産されるカキやホタテ、ワカメなどは甘味が強いことで知られる。

この雄勝町を襲つた津波は高さ20mを超え、沿岸の集落家屋のほとんどを流失させ、雄勝病院の入院患者や職員のうち62名もの犠牲者を出し、約800人の養殖漁家も漁場、家屋のほとんどを失つた。約4,000人だった人口は1,000人弱まで減少した。

その雄勝町で被災後の昨年8月に、8人の漁家による合同会社「オーガッツ」が設立された。

代表社員は雄勝町水浜に住む伊藤浩光さんだ。この町に生まれて、地元小学校を卒業し、仙台で運送関係の会社を共同経営して25年過ごした後、雄勝町に戻りホヤ・ホタテ・カキなどの養殖漁業を8年前に継いだ。現在50歳。

継いでほみたもの、「儲からない漁業の実態に驚かされる。周囲の漁家を見ても後継者不足は明らかで、

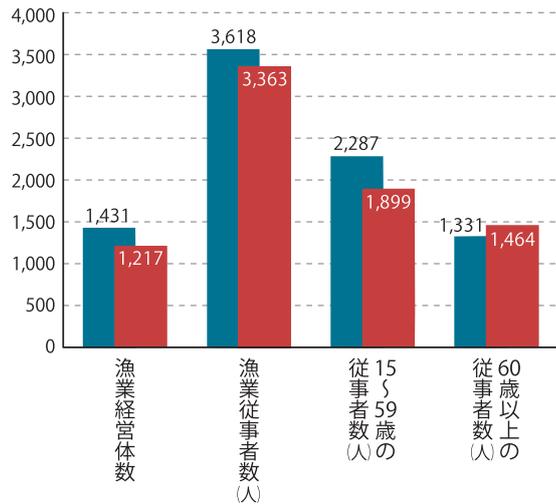


津波によって雄勝町の町並みは全て破壊された



オーガッツ 代表社員 伊藤 浩光さん

■石巻市の漁業従事者の5年間の推移



※2003年の数字は合併前の北上町、雄勝町、牡鹿町、石巻市の数字を合算したものの

漁業センサスより作成

多くの課題を抱えている。日本一の水産都市である石巻市でも2003～2008年の統計によると、漁業経営体および従事者の数は減少しており、60歳以上の漁業従事者の数は相対的に増加している。(左表参照)

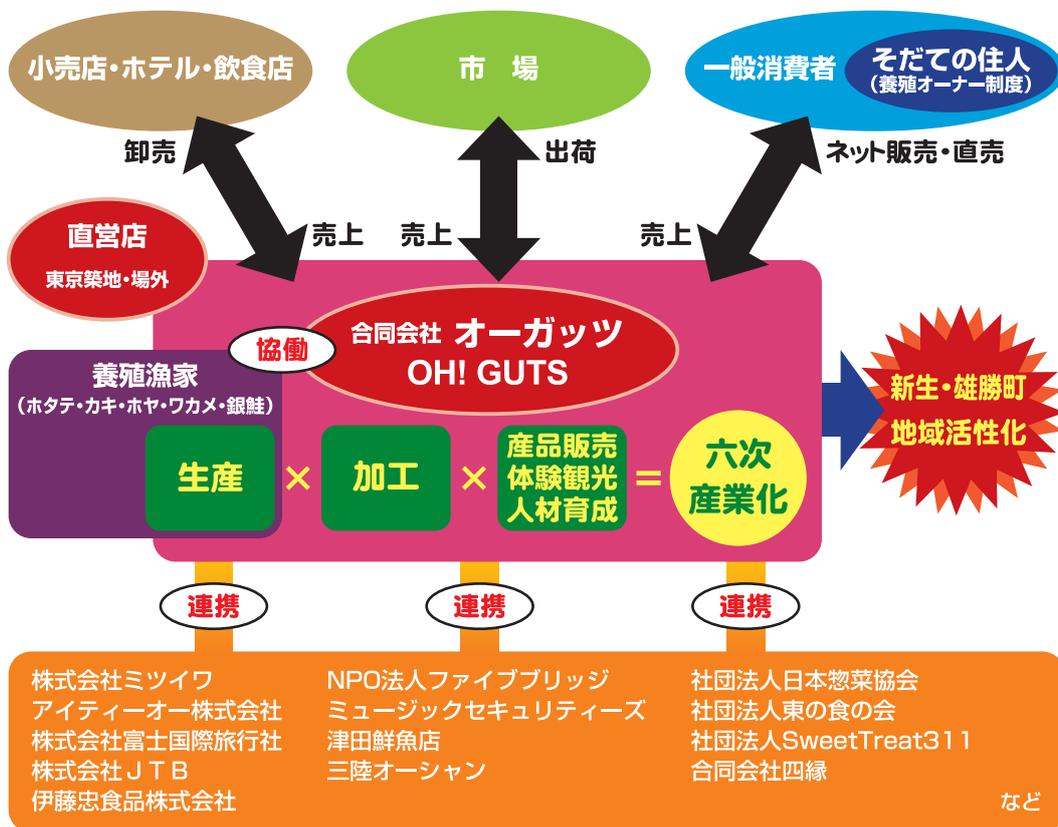
漁業の未来は暗いというのが伊藤さんの実感だった。確かに、漁獲量の低迷、漁家の後継者不足に加え、全国の漁家世帯のうち、販売額が年300～500万以下の世帯が約65%を占めているなど、日本の漁業は

「こんな酷い目にあったときは、何かチャンスを見つけれはるはずだ」避難した山の上から流されていく集落を呆然と眺めながら伊藤さんは思った。そう思うと「かえってすっきりした」という。被災4日後に仙台の「マルシェ・ジャポン・センダイ」と

そうした危機感から伊藤さんは、後継者の育成や1次産業に2次産業(製造・加工業)、3次産業(サービス業)を掛け合わせた漁業の6次産業化を目指すことになる。15坪のカキ、ホタテ、ホヤなどの加工場を作り、海外にも出荷を行い、年間の売り上げも伸びてきて、やっと手ごたえを感じるようになったのが、雄勝に帰ってきて6年目のことだった。その翌年、今回の東日本大震災に遭遇する。巨大津波は、伊藤さんが消防団員として水浜の漁村センターで避難用の暖房器具を用意しているときにやってきた。自宅、加工場、船、養殖筏の全てを失い、残ったのは免許証1枚だけ。負債は2,000万円に上った。

そうした危機感から伊藤さんは、後継者の育成や1次産業に2次産業(製造・加工業)、3次産業(サービス業)を掛け合わせた漁業の6次産業化を目指すことになる。15坪のカキ、ホタテ、ホヤなどの加工場を作り、海外にも出荷を行い、年間の売り上げも伸びてきて、やっと手ごたえを感じるようになったのが、雄勝に帰ってきて6年目のことだった。その翌年、今回の東日本大震災に遭遇する。巨大津波は、伊藤さんが消防団員として水浜の漁村センターで避難用の暖房器具を用意しているときにやってきた。自宅、加工場、船、養殖筏の全てを失い、残ったのは免許証1枚だけ。負債は2,000万円に上った。

■「オーガッツ」の概要



という産直所に支援物資を取りに行き、それから毎日、雄勝町に物資を運んだ。その過程で前年に石巻で行ったイベント「世界ホヤ・EXPO」の仲間たちと再会して、お互いに励ましあううちに、あきらめかけていた

養殖業の再建を考えるようになった。また、「ミュージックセキュリティーズ社」の復興ファンドの話も聞き、「漁業の6次産業化」をするために考えていた「漁業者による会社」の現実化を真剣に考えるようになる。



■「オーガッツ」の歩み

2011年	
3月	東日本大震災発生。旧雄勝町の地元漁師数名で食糧や物資の調達を始める。
4月	代表社員の伊藤浩光氏が「オーガッツ」の構想を周囲の漁師たちに話し、仲間を集め始める。
5月	資金繰りや仲間集めに奔走するも難航。支援で雄勝にいた立花貴氏（現在社員）と出会う。立花氏は食品流通分野での経験を活かして、「オーガッツ」実現のために動き出す。
6月	事業計画を立て、支援者や企業を回り始める。仲間が集まり始める。
7月	合同会社設立に向け、登記やホームページ作成などの準備を始める。
8月	会社設立。「そだての住民」募集開始。事務所の設置や電話回線開通。船や漁具の調達や整備。
9月	カキの養殖開始。第1回「そだての住民」養殖作業イベント実施。第2回「東の食のこれからを考える会」参加。納屋の設置、船や漁具の調達や整備。寄贈船輸送、葉山から雄勝まで海上輸送。「東北の未来へつなげる会」参加。雄勝小学校、職業教育授業。
10月	船や漁具の調達や整備。「東日本大震災復興祭2011」参加。
11月	ホタテ養殖開始。船や漁具の調達や整備、船塗装。第2回「そだての住民」養殖作業イベント実施。名古屋「菊武学園」の被災地体験学習実施。雄勝小学校5年生の漁業体験授業。「食の産業サミット」参加。
12月	海外プレスツアー9カ国13社実施。一夜限りのオイスターバー開催。横浜市「市ヶ尾中学校」の職業教育と食育授業実施。ホヤの養殖作業開始。第3回「そだての住民」養殖作業イベント実施。初日の出イベント実施。
2012年	
1月	地元に残った住民と新年会。寄贈された釣り船2隻の出航。
2月	ワカメの収穫と販売準備。第4回「そだての住民」ワカメ収穫作業イベント実施。
3月	企業の社員食堂や復興イベントで「生ワカメ」を販売。
4月	生ワカメの出荷終了と塩蔵作業。銀鮭出荷の準備。
5月	花見&銀鮭エサやり見学イベント実施。
6月	「活じめ銀鮭」出荷開始。
8月	水浜に加工場が完成。

「NPPO法人ファイブブリッジ」の異業種交流勉強会のメンバーの弁護士に、雄勝の状況を話し、自らが考えていることを相談

「漁業」と観光を融合させた新しい「漁業」を行う合同会社「オーガッツ」だった。

未曾有の大災害からの復興は個人レベルでの対応の範囲を超え、多くの人々の知見とお互いの連携なくして不可能であると感じていた。

そこで仙台の「NPPOプラザ」で、以前から参加していた「NPPO法人ファイブブリッジ」の異業種交流勉強会のメンバーの弁護士に、雄勝の状況を話し、自らが考えていることを相談

4月に入り、仲間を集めると同時に資金繰りにも奔走する。5月に食材販売などの起業家・立花貴さんや子ども体験施設「キツザニア」運営会社幹部の油井元太郎さんなどに出会い、一気に話が前進することになった。

こうしてできたのが、「生産者である漁業者とマネージメントやマーケティングのプロによる加工・直販」と「漁業と観光を融合させた新しい「漁業」を行う合同会社「オーガッツ」

「そだての住民」という養殖オーナー制度

参加した漁家は7名。全員が被災しており全てを失っている。それに、前述の立花さんが参加して総勢8名で出資した。それぞれが個人事業主として出資する合同会社にした。区画漁業権を持つ7名の漁家が収穫物を持ち寄る形にして「オーガッツ」は加工・直販や体験漁業を行う。現在の社員は12名。その平均年齢は40歳と、漁師の世界では若い集団だ。事務所を水浜の集落を見下ろす高台に構え、伊藤さん自身は隣接する親戚の空き家を自宅として購入した。最初に取り組んだのが、事業資金の確保と事業のPRをするための「そだての住人」という養殖オーナー制度だ。インターネット等で、全国から1口1万円でオーナーを募る。生産物はオーナーにも還元して、希望者には雄勝町に引き養殖体験などを行ってもらう。支援者であると同時に雄勝町の漁業が再建していく模様を体感してもら

これを原資に昨年秋には養殖業の再開にこぎつけた。本年8月段階で約3,000人が「そだての住人」に参加しており、2012年度末の2,000口の目標を達成した。本年度は20,000口を目標としている。彼らを招いた養殖作業や収穫作業イベントも5回を数えた。加工場もこの8月に完成した。秋の本格的な収穫以降、様々な加工品が出荷されることになる。

また、注力しているのが養殖業の

うのがねらいた。



8月に完成した加工場では秋以降様々な加工品が生まれる



「花見&銀鮭エサやりイベント」で「そだての住人」との交歓会



若手の漁師を育てるのも「オーガッツ」の重要な使命



今年6月には、被災後初の銀鮭の水揚げが行われた



支援者から贈られた電動船

新しい担い手の育成。密殖をしないなど、雄勝には先祖から伝えられたノウハウがあり、漁業に関心のある若者を3年かけて育成する。

事業の柱のもうひとつは漁業体験などの観光事業だ。養殖から出荷まで漁師の仕事全般にわたって体験してもらおうプログラムを開設している。被災後、以前から年に4回実施していた雄勝小学校の5年生の職業教育

グローバルにモノを考えられる仲間とのさらなる連携を目指す

だが、課題も数多く残っている。

体験観光を本格的に進めるためには、宿泊施設等も必要になる。現在、「そだての住人」が雄勝に来たときには、伊藤さんが住む家を開放し、利用料として1泊2,000円をいただいている。風呂とトイレが2ヶ所あり大人数の収容は可能だが、民宿などの宿泊施設として使用するには、旅館業法や消防法、公衆衛生法などへの対応が必要になってくる。幸い、メンバーの妹が調理師免許、伊藤さんも衛生管理士の免許を持っているので、そうしたことを含め、観光事業については今後の課題として解決していくつもりだ。

伊藤さん個人の借金も億近くになってしまった。個人事業者のひとり

授業の復活を皮切りに、名古屋の私立中学校や横浜の公立中学校の被災地教育授業や職業教育授業を受け入れている。今後は旅行会社とのタイアップを更に進める予定だ。一般の観光客を対象にするパッケージツアーも考えている。船で養殖の水揚げ作業を行ってもらい、浜で魚介類のバーベキューを行うというようなものだ。

なので、「オーガッツ」とは別に、

名取市にカキの「浜焼屋」を開いている。事務所のある水浜でも観光客相手に「浜焼屋」を開く予定だ。また、「オーガッツ」は震災後にできたので復興関連の補助金は受けられない。資金面での悩みも尽きない。だが、新たな希望も膨らんできた。日本に7隻しかない「電動船」のうち2隻(1・9トンと0・5トン)を、支援者が寄付してくれたのにあわせて、港に充電施設を造り、これを観光の目玉にする計画だ。

また民間の卸売市場も作りたい。IT産業とコラボレーションしてインターネット・オークションのようなセリのシステムを考えている。雑魚として捨てていたものでも美味し

直販事業では、「そだての住人」以外に、ホテルや居酒屋に直接販売するほか、本年9月には東京築地の場外にイタリア風の「バル」を出店する。そこでは雄勝の海の幸を首都圏の人々に満喫してもらおうつもりだ。これまで伊藤さんを始めとする社員は「雄勝をなんとかしたい。養殖をなんとかしなければ…」という思いで走ってきた。

く調理できるものがたくさんある。こうした魚をインターネットのセリで飲食店の皆さんに買ってもらうのだ。雄勝の港をこうした「スマートポート」として再生させていきたいという。

「今までの漁師はムラ意識が強かった。私たちはグローバルにモノを考える仲間をさらに増やす必要があります。そうした仲間の知恵を活かしたマネージメント能力や事務処理能力をもっと向上させていかなければならない」と伊藤さんは語る。そのため、近い将来、株式会社化も考えている。

「漁師は自立することを真剣に考えるべき。そのためには、まず、肝を据えることができるかどうかだ。自分たちは震災にあつたおかげで肝を据えることができました」と、伊藤さんは顔を紅潮させた。

産業の連携・融合を含めた復興を目指す 石巻市

震災から1年半が経過した。本年3月に宮城県が発表した「復興への進捗状況」によると、県の漁獲量は前年比の約3割までに回復した。石巻市の養殖業も復活の兆しが見えてきている。幸いなことに、万石浦に残っていたカキの種苗棚（木架）の1割が津波の被害を逃れることができた。この種苗を昨年6月ごろに海に入れ、10月に出荷できた。シーズンのプランクを作らなかつたのだ。

このスピードは、津波によって海底がかき回されプランクトンが増加したことによるといわれる。

前述の石巻市水産課の及川課長補佐は「養殖業者の皆さんの涙ぐましい努力によって、カキの生産量は例

年の1割ほどでしたが、なんとか出荷できました。ワカメは8割、ノリは3割程度にまで回復しています」と言う。

昨年10月に宮城県が発表した「宮城県の水産業復興プラン」では「単なる原型復旧ではなく、『新たな水産業の創造』を目指す」としている。

石巻市の「震災復興基本計画」でも平成25年度末までに漁港のインフラを整備する。同時に、産業の連携・融合を含めた復旧・復興を促進するとともに地域資源を活かした産業基盤づくりを図ることとしている。

具体的には、6次産業化や農工商連携などの支援が中心となる。

石巻の養殖カキはほとんどが殻付生鮮カキで、宮城県の2/3が石巻で生産されている。そうしたことから石巻市はカキからの6次産業化を進める意向をもっている。カキレストランなど『浜焼き』の焼カキを食べさせる仕掛けだ。一部の業者がすでに渡波地区で開業しており、復興プランの中でも、市内にそうした施設を造ることになっている。土地・建物は行政で用意して、漁家も参加できる施設を、平成27年度を目途に計画している。



「日本一の水産都市・石巻の復興なくして日本の水産業の未来はないということです。震災を契機に『儲かる漁業』を目指す方々も出てきました。『オーガッツ』のような前向きの人たちが出てくると地域も元気になるのでは非頑張っていただきたい」と及川課長補佐はエールを送る。

確かに、資源管理、経営体質の強化、流通・加工機能の強化等、日本の水産業には課題が山積している。

しかし、大震災というピンチをチャンスに変え、持続的な漁業の展開や地域の活性化に役割を果たそうとする「オーガッツ」は、漁師のみならず私たちにも大きな「元気」を与えているのだ。



石巻市の旧雄勝支所前に設けられた仮設商店街



雄勝湾の豊かな海で大事に育てられているカキ

「足し算」ではなく「掛け算」

地域経済活性化策のトレンドとして「6次産業化」という言葉をよく耳にする。成熟した社会における新たなビジネスモデルとしてここ数年の間に急速に語られることが多くなった。特に、昨年の東日本大震災以降、各地域の「復興計画」においては「6次産業化」が大きな課題とされている。

この6次産業化を推進する場合の視点として重要なことは、1次産業から2次産業、3次産業までの各部門の「足し算」ではなく「掛け算」である、ということだ。

それぞれの部門で0がひとつでも掛け合わされてしまうと、その事業成果は0ということになる。当たり前だと思われるかもしれないが、最も重要なことはこの点である。

つまり、1次産業での「高品質な産品」、2次産業での「安心・安全」、3次産業で「利便性・多様性」など、常に「エンドユーザー」を意識した「商品」づくりは、それぞれの部門で事業を進める際の最低限の条件だ。その意味では、1次産業がうまくいかないから、6次産業化を目指すというのは、最初からありえない。

必要十分条件としての「連携」

自信のある生産物を作る、生産者の顔が見える「トレーサビリティ」、

「HACCAP」などによる安全・安心の徹底、「ITの活用」などによる利便的で多様性のある販売チャネルの確立など、それぞれの産業部門で不断の努力が重ねられている。

しかし、「儲からない農林水産業」という言葉があるように、とりわけ1次産業を取り巻く状況はかなり厳しいのが実態だ。

「6次産業化」とは、農林水産省の「農山漁村の6次産業化の考え方」によると、「農林漁業生産と加工・販売の一本化や地域資源を活用した新たな産業の創出を促進」をすることであり、「雇用と所得を確保し、若者や子供も集落に定住できる社会を構築するため」とされる。

このように、6次産業化とは「掛け合わせ」で、高付加価値の産品を生み出し、地域における新たな産業態を形成して、雇用と所得を増加させることにある。「儲からない農林水産業」という業態から脱却して、後継者不足を解消し、ひいては定住人口の増加を目指すという地域の根本的な課題を解決するひとつのビジネスモデルなのだ。

しかしながら、1つの経営体で6次産業化を進める場合、新しい業態を作り出すというのは容易ではない。そこで、有効とされるのは、産学官連携や農商工連携、異業種間連携だ。それぞれの「プロ」が、お互いの弱点を

補い合い、それぞれの質を高め合うという「連携の力」が、事業化において大きな力となる。それぞれの部門に精通した専門家の意見や技術実証、異業種交流におけるヒントや気づきなどによる、新技術や新たな仕組みなどは、6次産業化の「鍵」と言ってよい。

「経済の域内循環」を目指す

ただ、その場合に留意しなければならないことがある。それは「地域内経済の循環」である。

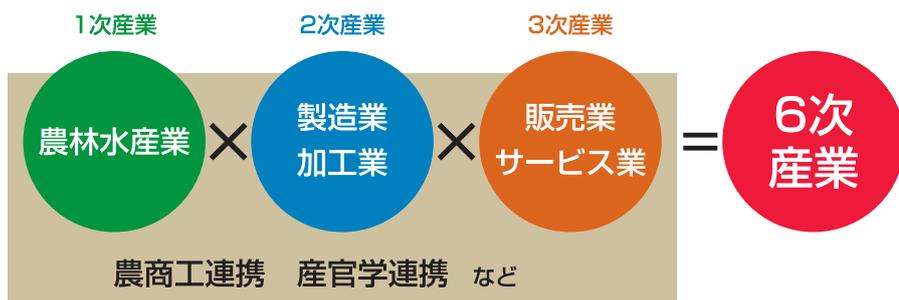
6次産業化によって、「地域財」が地域外に流出するのでは、6次産業化の目的である「地域内の雇用と所得の増加」を達成することが難しくなる。地域内で「お金」を循環させるために、可能な限り域内の各産業部門との連携を模索することが必要になる。

理想的な連携が可能な経営体や個人は少ないのが現状だ、という地域もある。しかし、自立的な経営体や個人を地域資源と位置づけ、地域内から探し出して網の目のような連携による新しい業態を作り出すことによって、「地産地消」などの域内経済の循環は生まれる。

確かに、地域外の外部の力は必要などきもある。特に経済動向の把握力や企画力・デザイン力、販路開拓力、資金力などにおける外部の力は無視できない。

しかしそれは「触媒」としての役割でしかなく、新しい業態の担い手は主体的・自立的な「地域プロデューサー」であることを自覚し、6次産業化を始めとする、地域活性化の推進者であることを認識することだ。そのうえで、外部の力を上手に取り込んでいくことが大事ではないだろうか。

6次産業化のイメージ



平成24年のイベントカレンダー

10月	★大間超マグロ祭り(大間町)
	→ 下風呂若宮稲荷神社例祭(風間浦村)
	むつ市のうまいは日本一! in 亀戸“むつとの遭遇”(むつ市) ★
	→ ひがしどおり新そば街道まつり(東通村)
	第29回ろっかしよ産業まつり(六ヶ所村) →
	一関・平泉パルーンフェスティバル2012(一関市) →
	→ 本場大館ぎりたんぼまつり(大館市)
	★第13回男鹿梨まつり(男鹿市)
	第58回菊の祭典 二本松の菊人形(二本松市)
	→ コスキン・エン・ハボン2012(川俣町)
11月	第33回九頭竜紅葉まつり(大野市) →
	美濃和紙あかりアート展(美濃市) →
	松江水燈路(松江市) ※9/15~10/14の土日祝
	→ 白川郷どぶろく祭り(白川村)
	第30回備前焼まつり(備前市) →
	いちき串木野づくし産業まつり 地かえて祭り(いちき串木野市) →
	★佐井のおさかなまつり(佐井村)
	第58回菊の祭典 二本松の菊人形(二本松市)
	→ 常陸秋そばフェスティバル2012(常陸太田市)
	志和こんぶまつり(四十万町) ★
→ 唐津くんち(唐津市)	
曾木の滝公園もみじ祭り(伊佐市) →	

電源地域 情報 ひろば

「電気のあるさと」では電源地域の各市町村で開催されるイベントや伝統的なお祭りなどの情報をまとめて掲載するコーナーをつくりました。今回は10・11月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のあるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載にあたり費用が発生することはありません。(誌面の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)

■地域振興部 振興業務課 電気のあるさと編集室
☎03-6372-7305 E-mail: furusato@dengen.or.jp

さいむら 佐井村

青森県

新鮮な海産物がいっぱい ～佐井のおさかなまつり

毎秋開催される佐井村の収穫祭的性格を持つイベントです。本州北限の博物館「佐井村海峡ミュージアム」のある津軽海峡文化館の会場では佐井村の新鮮な魚(シャケ、ブリ、ヒラメ、カワハギ等)や水産加工品が大特価で販売されます。



新鮮な魚を買い求める人たち

また、会場外では農家や漁師が直接販売する「軽トラ市」が開かれる他、青森の郷土料理「じゃっぱ汁」の無料配布や餅まきなども行われ、多くの来訪客で賑わいを見せます。

【開催日】11月上旬(平成23年度は11月13日(日))
【開催場所】津軽海峡文化館「アルサス」
【主催・問合せ先】アルサス活性化協議会
☎0175-38-4513
【URL】saikanko.sakura.ne.jp

かざまうらむら 風間浦村

青森県

秋の夜を彩る ～下風呂若宮稲荷神社例祭

しもふる 下風呂若宮稲荷神社祭典は下北半島最後の秋祭りで、青森県無形民俗文化財にも指定されています。昼夜、船山車^{とぎよ}が下風呂温泉街を巡行します。沿道の家々では窓際に供物、御神酒、燈明をあげて渡御の行列を迎えます。昼間は四斗樽、鉾や旗などが飾られていた船山車も夜はお色直して提灯が付けられ、秋の夜を彩ります。下風呂温泉街から神社までの坂道を、獅子を振りながら歩く“くるい獅子”は祭りのフィナーレを告げ、見る者を魅了します。



夜の下風呂を彩る山車

【開催日】10月9日(火)～11日(木)
【開催場所】風間浦村下風呂地区
【問合せ先】風間浦村商工会 ☎0175-35-2111
【URL】www.shimohuro.com

おままち 大間町

青森県

2012朝やげ夕やげ横やげ ～大間超マグロ祭り

脂の乗った大間マグロを食べる事ができる毎年10月に大間港特設会場で開催されているイベントです。



解体後の見事な厚みのマグロ

メインは迫力満点のマグロ解体ショーです。毎年立ち見が出るほどの人気です。また、マグロをはじめとする大間町の特産品の即売会も開催され大好評です。例年、全国各地から多くの観光客で賑わいます。表題にある「朝やげ夕やげ横やげ」とは、太平洋からの朝日、日本海に沈む夕日、対岸の函館の夜景を横から見られるという大間町を表しています。

【開催日】10月20日(土)、21日(日)
【開催場所】大間港特設会場
【主催・問合せ先】大間町観光協会(大間町商工会内) ☎0175-37-2233 【URL】oma-wide.net

**村の面白さ・豊かさが満載
～第29回ろっかしょ産業まつり**

毎年この時期に開催される六ヶ所村の面白さ、豊かさを一挙公開するお祭り



多くの人で賑わいを見せる祭り

です。会場には六ヶ所で収穫された農産物・海産物や加工品などのブースが並び格安で販売される他、大人気の「鮭のつかみどり」、ブランド牛として知られる「小川原湖牛のバーベキュー」、旬の産品が並ぶ「ふるさと新鮮市場」など、食べて遊べるイベントが満載で、多くの来場者が秋の味覚と各種イベントで秋のひとときを満喫しています。

【開催日】10月27日(土)、28日(日)

【会場】尾駮(おぶち)漁港特設会場

【主催・問合せ先】六ヶ所村観光協会

(六ヶ所村役場商工観光課内) ☎0175-72-2111

【URL】www.rokkasho.jp

**秋の味覚を味わう
～ひがしどおり新そば街道まつり**

今年収穫されたばかりの新そばを村内各地の7会場で味わって貰おうと毎年



新そばを楽しむ人たち

10月に開催されています。

各会場では石臼で挽いた手打ちの十割そばやお出汁が味わえる他、村内で生産された米・野菜・山菜等が特価で販売されます。毎年多くの来場者で賑わいますが、中には数会場を周り、地区独特の出汁やそばの打ち方を楽しむ「通」の方も数多くいます。初秋のこの時期にしか味わえない、そばの味を存分に楽しんでください。

【開催日】10月6日(土)～8日(祝)

【開催場所】東通村内7会場(村内各地区)

【主催・問合せ先】東通村つくり育てる農林水産課(農林振興G) ☎0175-27-2111

【URL】www.vill.higashidoori.lg.jp

**むつ市と東京江東区が産消連携
～「むつ市のうまいは日本一! in 亀戸
“むつとの遭遇”開催**

青森県を飛び出し、むつ市の「食」のPRイベントを開催いたします。



東京の下町情緒とむつの味を楽しむ

当日は東京・江東区で最も古い歴史を持つ、亀戸香取勝運商店街とのコラボにより「むつ市のうまい」をお届けするほか、下北地方最大の夏祭り「田名部まつり」の囃子披露をはじめ、特産品が当たる抽選会など、様々な企画をご用意しておりますので、ぜひ、足をお運びください。昭和レトロな街の散歩やむつ市の「食」を満喫できます。

【開催日】10月27日(土) 10:30～19:30

【開催場所】東京都江東区・亀戸香取勝運商店街

【問合せ先】むつ市産業政策課 ☎0175-22-1111(内線)2613

【URL】www.city.mutsu.lg.jp

**北限産地・男鹿の和梨で秋を満喫
～第13回男鹿梨まつり**

北東北最大の和梨の生産地でもある男鹿市五里合地区。昼夜の温度差が育む糖度の高い旬の男鹿梨『豊水』がおなかイッパイ食べられて、お得にお買い物もできる楽しいイベント



「ミス・フレッシュ」のみなさん

です。なまはげ太鼓・民謡で、お子様からお年寄りまでみんなで一日楽しめる、梨好きにはたまらない毎年秋の恒例・男鹿梨まつりとなっています。

【開催日】10月7日(日)9:30～14:00

【開催場所】JA秋田みなみ 中石梨選果場

【主催】男鹿梨まつり実行委員会

【問合せ先】JA秋田みなみ 営農販売課

☎0185-46-2311

【URL】www.ja-akitaminami.or.jp

**代々受け継がれるおふくろの味
～本場大館きりたんぼまつり**

きりたんぼの本場大館市が全国に誇る郷土料理のきりたんぼを強力にアピールするため、市民一丸となって開催するイベントです。本場のきりたんぼや創作きりたんぼ、秋田県内の郷土料理も出店し食の一大イベントが催されます。



本場の味を満喫

当日は大館観光大使の因幡晃ミニコンサートや秋田犬とのふれあい、きりたんぼづくり体験、比内地鶏千羽焼きなど多彩なイベントが盛りだくさんです。

【開催日】10月13日(土)13:00～20:00、10月14日(日)10:00～17:00

【開催場所】大館樹海ドーム

【主催】本場大館きりたんぼまつり実行委員会

☎0186-43-1900

【URL】tanpofes.com

**東日本大震災復興支援イベント
～一関・平泉バルーンフェスティバル2012**

国内トップレベルのパイロットによる熱気球競技大会に加え、熱気球体験搭乗など、地元密着型で楽しい数々のイベントが満載です。



大空を彩る数々のバルーン

早朝、夕方に実施される熱気球競技飛行のほか、午前、午後には熱気球教室が開催されます。熱気球を目の前にしながら、その構造や原理を解説します。午前中に実施される熱気球係留体験搭乗とあわせ、実際に気球に触れてみてください。

【開催日】10月20日(土)6:30～20:00、10月21日(日)6:30～12:30

【開催場所】一関遊水地記念緑地公園多目的広場

【主催・問合せ先】一関・平泉バルーンフェスティバル

実行委員会 ☎0121-21-8413

【URL】www.visitjapan-tohoku.org/zone/hiraizumi/event/1331/

ひたちおた 常陸太田市

茨城県

新そばのあじと香りを満喫 ～常陸秋そばフェスティバル2012

そば特有の香り・甘味の強さや、品質から高い評価を受けている「常陸秋



そばを楽しむ秋の一日

そば」。その発祥地として知られるかなさごう金砂郷地区で「秋そばフェスティバル」が開催されます。

県内外のそば処が集まる「新そば食べ歩きコーナー」や「そば打ち体験教室」といった、そば通ならずとも見逃せない催しが盛りだくさん。深まりゆく秋の中、新そばの味と香りを思う存分満喫してください。

【開催日】11月10日(土)、11日(日)

【開催場所】常陸太田市宮の郷工業団地

【主催】常陸太田市、常陸太田市観光物産協会

【問合せ先】金砂郷産業建設課 産業観光係

☎0294-76-2117

【URL】www.city.hitachiota.ibaraki.jp

かわまたまち 川俣町

福島県

川俣町に響くフォルクローレの調べ ～コスキン・エン・ハボン2012

コスキン・エン・ハボンは、毎年開催されているフォルクローレの音楽祭です。



プロ・アマを問わず全国の愛好者が集う

フォルクローレとは、南米アンデス山脈に住む先住民に伝わる民族音楽で、尺八に似た縦笛のケーナ、マンドリンのような十弦小型ギターのチャランゴ、それに打楽器ボンボが基本編成になっています。当初は13グループによって始まり、現在、参加グループは150を超えるまでに成長しています。

【開催日】10月6日(土)14:00～24:00、10月7日(日)

10:00～24:00、10月8日(祝)10:00～15:00

【開催場所】川俣町中央公民館

【主催】ノルテ・ハボン

【問合せ先】コスキン・エン・ハボン開催事務局

☎024-566-5050

【URL】www.cosquin.jp

にほんまつ 二本松市

福島県

霞ヶ城を舞台に開かれる伝統のお祭り ～第58回菊の祭典 二本松の菊人形

二本松市には藩政時代より菊の愛好者が多く、昭和初期から菊人形が街に飾



二本松少年隊の菊人形

られていました。その後、昭和30年から趣向を変え、現在の「菊の祭典」として福島県立霞ヶ城公園(国指定史跡「二本松城跡」)を会場に華々しく開かれるようになりました。

毎年約10万人以上の入場者で賑わいを見せています。昨年に引き続き今年も入場無料で開催します。

【開催日】10月13日(土)～11月18日(日)

9:00～16:00

【開催場所】福島県立霞ヶ城公園

【主催】(財)二本松菊栄会

【問合せ先】二本松市産業部観光課

☎0243-55-5122

【URL】www.nihonmatsu-kanko.jp/kikuningyo.html

しらかわむら 白川村

岐阜県

豊作の秋を喜び、山里の平和を祈る ～白川郷どぶろく祭り

毎年10月14～19日にかけて白川村の3つの地区では、豊作の秋を喜び、家内



どぶろくを神に捧げる神事

安全と山里の平和の祈りを込めて「どぶろく」を作り神に捧げる「どぶろく祭」が行われます。「御神幸」の行列が合掌集落の民家を練り歩き、神社に戻った後、獅子舞や民謡等が奉納され、来客一人ひとりにこの日のためだけに造られ、その製法も秘密とされる「どぶろく」を盃についで振る舞います。神社では獅子舞や舞踊などの神事も繰り広げられます。

【開催日】10月14日(日)～19日(金)

【開催場所】白川村内

【問合せ先】白川村役場 産業課 ☎05769-6-1311

【URL】shirakawa-go.org/kankou/

みの 美濃市

岐阜県

「闇とあかり」「光と影」が織りなす幽玄の美 ～美濃和紙あかりアート展

1300年の伝統を誇る「美濃和紙」を使ったあかりの艺术作品を全国から



幻想的に浮かび上がる歴史的な町並み

募集し、「うだつの上がる町並み」に展示します。そこに灯るあかりのオブジェは、美濃和紙の持つ柔らかさや美しさ、そして新たな可能性をも感じさせてくれます。平成6年から今年で19年目を迎え、会場周辺では臨時売店や街角コンサートなどのイベントも開催されます。

【開催日】10月20日(土)、21日(日)

【開催場所】市内のうだつの上がる町並み

【主催】美濃市観光協会、美濃和紙あかりアート

展実行委員会

【問合せ先】美濃市観光協会 ☎0575-35-3660

【URL】www.akariart.jp

おおの 大野市

福井県

色鮮やかな紅葉を楽しむ ～第33回九頭竜紅葉まつり

大野市和泉地区、九頭竜湖近くの九頭竜国民休養地(森林浴の森百選)に



紅葉を楽しむ観光客

において開催されます。会場内はブナやミズナラ等の広葉樹が鮮やかに色づき、手打ちそば、「昇竜まいたけ」「穴馬かぶら」などの特産品販売、郷土芸能や地元の子供達によるステージイベント、化石発掘やトロッコ列車乗車などの楽しい体験コーナーがあり、美しい紅葉を楽しもうと多くの観光客が訪れます。

【開催日】10月27日(土)、28日(日)

【会場】九頭竜国民休養地(大野市角野)

【主催】大野市、九頭竜まつり実行委員会

【問合せ先】九頭竜まつり実行委員会事務局

(大野市和泉支所住民振興課内) ☎0779-78-2111

【URL】www.city.ono.fukui.jp

海辺のまちの贅沢な味のイベント
～志和こんぶまつり

四万十町
の海辺のま
ち、志和地
区で獲れた
新鮮な魚介
類をその場
で堪能でき



伊勢エビ汁やすり身の天ぷらが人気

る「志和こんぶまつり」。昆布入りすり身の天ぷらや伊勢エビ汁は、毎年長蛇の列ができるほど大人気です。会場で買った魚介類をその場で焼いたり、刺身にしたりして食べられるのも、この祭りならではの楽しみ方。とても贅沢なイベントになっています。また、漁船に乗ってのクルージングや伊勢エビなどが当たるくじ付き餅投げなども行われます。

【開催日】11月25日(日)

【開催場所】志和港周辺

【主催・問合せ先】志和こんぶまつり実行委員会
(中野) ☎0880-24-0401

【URL】www.kubokawa.com/

全国から焼物愛好家が集う
～第30回備前焼まつり

昭和58年
から始まった
備前焼まつり
は、今では2日
間で約14万人
もの焼物愛



全国から陶磁器の愛好家が集う

好家で賑わう、日本国内でも有名な祭りとなっています。この日は、備前焼陶友会会員の作品が2割引で展示即売されるほか、「ろくろ実演」や「茶席」などの多彩な催しが行われます。また、前夜祭として、炎のまつり「かべりだいまつ」が行われ、伊部の町並みを大たいまつを持った地区の人々が練り歩きます。

【開催日】10月20日(土)、21日(日)

【開催場所】備前市伊部地区、備前焼伝統産業会館
およびJR赤穂線伊部駅周辺

【主催】備前焼まつり実行委員会、備前市、
(協)岡山県備前焼陶友会 ☎0869-64-1001

【URL】www.touyuukai.jp

「神在月 松江」での水と光の祭典
～松江水燈路

今年10周
年を迎える
松江水燈路
は、松江城
周辺を約
400個もの
行灯でライ



光と影が水の都を流麗に映し出す

トアップする光のイベントです。当日は城の周囲を巡る堀川遊覧船の夜間運航(18:30～21:00)もあり、船から景色をゆったり眺めることができます。松江城・武家屋敷や小泉八雲記念館などの市内の観光施設の開館時間も延長されます。光と影が織りなす幻想的な城下町松江をぜひお楽しみください。

【開催日】9月15日～10月14日の間の土日祝の12日間 18:30～21:00

【主催】松江ライトアップ・キャラバン実行委員会、松江市

【問合せ先】(社)松江観光協会 ☎0852-27-5843

【URL】www.kankou-matsue.jp

食のまちづくり宣言都市
～いちき串木野づくし産業まつり 地かえて祭り

「食のま
ち」いちき
串木野の商
工業、農林
業、水産業
等の各業界
が一体とな



土曜に開催される花火大会

ったお祭り。地元物産展、つけあげ(さつまあげ)フェスティバル、魚のつかみどり大会、牛肉試食、キャラクターショー、ライブ等が行われ、土曜日の夜は、花火大会があります。また、「鹿児島うんまかもんグランプリ2012 in いちき串木野」も同時開催され、鹿児島県内のご当地グルメが集結します。

【開催日】10月27日(土)9:00～21:00、10月28日(日)9:00～17:00

【開催場所】串木野新港隣接会場

【主催・問合せ先】いちき串木野づくし産業まつり
実行委員会(いちき串木野市役所水産商工観光課)
☎0996-33-5638

【URL】www.city.ichikikushikino.lg.jp

「平成百景」の豪快な景観を満喫
～曾木の滝公園もみじ祭り

前夜祭で
は雄大な滝
を幻想的に
映し出すラ
イトアップ
をご堪能く
ださい。本



紅葉狩りを楽しむ人々

祭では、様々なステージショーや、特産品販売などが催され、毎年市内外から約2万人の行楽客が訪れ、紅葉狩りを楽しんでいます。また、公園内では伊佐の名物の鯉料理や特産品である黒豚料理を楽しめるお食事どころもあります。荘厳な滝を彩る景色の中で秋を感じて見ませんか？

【開催日】11月22日(木)、23日(祝)

【開催場所】曾木の滝公園

【主催】伊佐市観光特産協会、伊佐市

【問合せ先】伊佐市地域振興課商工観光係
☎0995-23-1311

【URL】www.city.isa.kagoshima.jp/event/index.html

豪華絢爛！現代の絵巻物！！
～唐津くんち

唐津神社
の秋季例大
祭である唐
津くんちが
毎年11月2
～4日に開
催されます。



曳山を引く人々の掛け声が響く

1番ヤマ赤獅子から14番ヤマの七宝丸まで豪華絢爛な曳山が、城下町を練り歩き、毎年全国から多くの観光客で賑わいます。この曳山は、獅子や龍、浦島太郎など、昔話に登場する馴染み深いものばかりです。今年は、香港のニューイヤー・ナイトパレードや韓国の麗水世界博覧会ジャパnデーに参加するなど、海外にも広く紹介されています。

【開催日】11月2日(金)～4日(日)

【開催場所】唐津市内

【問合せ先】唐津観光協会 ☎0955-74-3355

【URL】www.karatsu-kankou.jp



大熊町熊川地区で飛び交うホタル
(震災前に撮影)

夏に採集した子どもたちは、体長約15ミリのホタルを手に取り、ホタルの発光体を不思議そうに見つめ、ホタルの放つ光が創

作した空間に、感嘆の声をあげていた。ホタルの生息地域は非常に限定的で、その生息の条件には、ホタルの幼虫やそのエサが生存できるきれいな川であること、成虫が活動する夜



ホタルの卵が採取された場所

ホタル舞うふるさと大熊町の復興を願って

福島県大熊町

電源地域 復興トピックス

災害からの復興を目指す各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域復興に向けた話題を取り上げています。今回は、昨年3月の東日本大震災や9月の台風12号になどによって大きな被害を受けた市町村の復興に向けた取り組みなどを紹介します。

E-mail: furusato@dengen.or.jp



台風被害を乗り越え 観光産業の復興を目指す

奈良県十津川村

平成23年9月3日、四国に上陸して日本海に抜けた台風12号は、西日本から北日本にかけての広い範囲に大雨を降らせ、各地に大きな被害を与えた。特に紀伊半島では記録的な降雨量を観測して、甚大な被害をもたらした。奈良県南部の十津川村では一時全村が孤立して、死者・行方不明者12名となる大災害となり、村の主要産業である林業や観光関連産業にも大きな打撃を与えた。

現在の大熊町はホタルが生息できる環境ではない。再びホタルが舞う自然を取り戻すため、ホタルのふるさと大熊町は一日でも早く復興できるように一歩ずつ歩んでいる。

や「大峯奥駈道」の散策ツアーは、地元語り部とともに歩く「世界遺産ウォーク」として、多くの観光客の人気を



(左)「熊野古道 小辺路」の果無集落 (右) 日本一長い路線バス





石巻市渡波地区の『かき小屋』

集めている。

現在、奈良県の近鉄大和八木駅から和歌山県のJR新宮駅まで、十津川村を経由して紀伊半島を縦断するスローなバス旅を企画し、「日本一長い路線バス」の料金を、通常の3割引で運行している。割引の区間指定はあるものの奈良交通の協力もあって実現したもの。

さらに十津川温泉郷の13軒の旅館・ホテルでは特別価格を設定して集客を図っている。奈良県が発行する奈良県南部の「地域復興支援プレミアム宿泊旅行券」を併用すれば観光客にとって、かなりお得な料金といえる。「世界遺産ウォーク」は平成19年過疎地域自立活性化優良事例として話

題を呼んだが、その語り部たちである

「十津川鼓動の会」のメンバーも健在で、定期的にツアーを開催しており、一定の人数が集まれば予約も可能だ。十津川村は村づくりのテーマとして、住民の自立、地域の自立、経済的な自立を成し遂げるために、「人の再生」、「地域の再生」、「自然の再生」という3つの基本的な考え方向性を示している。

大災害を乗り越え、「心身再生の郷」として村づくりに邁進する十津川村の今後注目が集まっている。観光に関する問い合わせは十津川村観光協会(☎07461631020)・ホームページは<http://totsukawa.info>へ。

三 陸かき小屋街道で地域や漁業者の元気を取り戻す

宮城県石巻市

宮城県石巻市の渡波地区は、東日本大震災の津波で大きな被害を受けたところだ。その海を臨む一角に本年2月、ビニールテントの『かき小屋』が出現。以来、石巻市民をはじめ観光客に人気を集めている。

テントの中にはベンチ椅子と炭火の焼台が並び、客自らが焼いて、石巻で収穫される芳醇な力

キの味を染しむ。料金システムは1皿1人分(8個入り)で1,000円。これに炭代300円とカキナイフ1本100円が追加される。



この小屋は仙台市のインターネット通販会社「アイリンク」が宮城県漁協石巻湾支所と協力して運営する

もの。震災後、養殖を再開したもの

の出荷量は減少し、さらに風評被害などで販売単価が減少しているために三陸沿岸の養殖漁家の収入は激減した。そうした状況の中、漁師や地域の元気を取り戻すべく、代表取締役の齋藤浩昭氏が三陸のカキ業界の復興に向けて企画した。運営のノウハウは、『かき小屋』経営で有名な福岡市漁協唐泊支所の支援を受けて伝授されたもので、焼台やベンチなどの資材の提供も受けている。

東京・有楽町で「福島まごころフェスタ」を開催

三陸の復興は、単に以前の状態に戻すというようなものではなく、被災前より遥かに良い状況にするために、新しい業態を起こすことが重要だと思っ

8月4日(土)と5日(日)の両日、東京・有楽町の東京国際フォーラムで経済産業省主催による「福島まごころフェスタ」が開催された。「見る・知る・味わう、ほんとの福島。ひろがれ!福島まごころプロジェクト」として、「ふくしまからはじめよう」という合言葉のもとに開催されたこのイベントには、福島県内の104の事業者が集結して、県内の特産品や工芸品を首都圏の消費者に直接販売した。

会場内のステージでは司会の別所哲也さんや華道家の假屋崎省吾さん、料理研究家の森崎友紀さんなどが、自ら体感した「福島のみま」を伝え、「郡山市民オーケストラ」の演奏や「スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム」の「フラガール」のフラダンスが、このイベントに花を添えた。

戻すというようなものではなく、被災前より遥かに良い状況にするために、新しい業態を起こすことが重要だと思っ

4月には仙台港にもオープンした。これに合わせて、仙台から岩手県の宮古市までの三陸沿岸に、線が結ばれていく『三陸かき小屋街道』の実現を目指す。

「今まで、僅かに点在していたカキ小屋が、三陸の復興のシンボルとなるよう、私たちが力を尽くしたい」と齋藤氏は語る。

「こおりやまぐリーンカレー」、「浪江焼そば」の屋台が並び、福島県のB級グルメが来場者の人気を集めていた。



オープニングセレモニー

〜活力ある地域づくりに向けて〜

茅葺きの集落景観保全活動を核とした地域づくり

新潟県柏崎市

新潟県柏崎市高柳町荻ノ島集落では、地域ぐるみで茅葺き屋根家屋で構成された農村の景観保全活動を通じて新しい地域づくりに取り組んでいます。当センターでは「柏崎市地域活性化調査業務」を受託し、この取り組みを支援しておりますが、その現状をご紹介します。

地域づくりの核となっていた茅葺き家屋の減少

新潟県柏崎市高柳町荻ノ島集落は、田んぼを取り囲むように茅葺き家屋が立ち並び、全国的にも珍しい茅葺きの環状集落となっており、その景観の美しさで知られる農村地域です。この地域では、旧高柳町の「じよんのびの里づくり構想」に基づいて、平成5年に茅葺き家屋の宿泊施設「荻ノ島かやぶきの里」を開業し、売り上げの一部を各家庭の茅の葺き替え費用の補助に充てるなど、地域ぐるみで茅葺きの農村景観を保全してきました。

また、都市農村交流事業の実施やテレビ番組や映画のロケの誘致、野菜・米の直接販売など、茅葺きの景観を利用して様々な形で地域づくりを行ってきました。しかし、少子高齢化が進み、荻ノ島の

代表的な景観である環状集落は、かつて20棟以上あった茅葺きの家屋が今や11棟にまで減少し、しかも、そのうち4棟が空き家となつてしまつています。

こうしたことから、地域づくりの核としてきた茅葺きの農村景観をいかに保全していくかが、現在の荻ノ島集落の大きな課題となつています。

最初の取り組みは茅葺きの集落景観の保全

茅葺き家屋の減少という大きな課題を抱えた荻ノ島集落の今後の地域づくりの方向性を検討するために、平成23年度に、柏崎市からの委託を受け、荻ノ島集落の住民を対象としたワークショップを開催しました。

その中で、荻ノ島集落の今後の地域づくりの課題として「多様な担い手による地域づくり」、「茅葺きの集落景観の保全」、「地域の経済循環の仕組みづくり」の3つが挙げられました。このうち、最初に進めることにしたのは「茅葺きの集落景観の保全」の課題の克服でした。



茅葺き家屋修繕に取り組む若者たち

検討の結果、その手法のひとつとして挙げたのが、地域外の人材の活用でした。この地域には自らの保全活動を行う「担い手」がいなかったため、これを補う手法として、外部の人材を活用することとしたのです。

具体的には、地域外の建築専門家と連携を図り、若手の木工職人や大工、木造建築や伝統的建築物を学ぶ学生などの実地研修の場として、空き家となつている茅葺きの家屋を提供していただくことにしました。

そのことによつて地域外の人材と荻ノ島集落の住民とが連携して茅葺きの空き家の改修を進めると同時に、その過程で得た知見をもとに集落景観の保全を図る仕組みを構築することとなりました。

若手の大工や学生などとの連携でワークショップを開催

連携先として挙げたのは次の2つでした。

ひとつは新潟県内や周辺県の建築組合等が主催する『東京の大工塾OB会』や『東京建築カレッジ』といった若い大工や大工を志す人たちなどの人材との連携です。彼らには、伝統的な建築技術を活かす場を求めるというニーズがありました。

もうひとつは大学の木造建築系の研究室です。現在、建築系の一部の大学が夏休みを使って、木造建築の現場体験と地域との交流を行う「木匠塾」というプログラムを行つていま



茅葺き家屋が立ち並び
荻ノ島集落





説明を熱心に聴く学生たち

すが、研究の一環として実施されているものです。

こうした若い力を活用した連携によつて「茅葺き景観保全」や「茅葺き家屋の維持保全」を進めることができました。

その経緯を踏まえ、平成24年7月27日(金)～29日(日)に、荻ノ島集落にて若手大工、木工職人、木造建築を勉強する東京の芝浦工業大学の大学生などを対象に「第1回修繕ワークショップ」を開催しました。

ここでは、大学教授や木造建築の専門家による指導のもと、茅葺き家屋の特徴を理解しながら、実測調査や図面の作成などを中心に行い、それぞれの修繕作業に向けた様々な課題を抽出し、その上で、修繕の方向性や活用の方針などが検討されました。特に、利活用の方針として、定住希望者への

ワークショップの様子



「賃貸物件」としての活用や、「ギャラリー」としての活用など、具体的な方針も提起されることとなりました。

このような専門家や実務者、建築系学生などと地域の連携によつて「景観保全」に取り組む例は全国的にも珍しく、今回のワークショップにも取材に訪れました。

10～11月には、第2回のワークショップが予定されています。

今年度は、ワークショップの開催を通じて、様々な課題を検証し、年度以降、具体的な修繕の成果を挙げていくためにも、継続的な「仕組み」の確立を目指すことが必要となります。

います。

そのためには、具体的な成果を挙げるための実行体制をどのように構築していけばよいかを模索しながら進めていくことになっていきます。

ワークショップでの熱心な議論



電源地域 振興センター 事業の紹介

今回紹介した荻ノ島集落の取り組みは「茅葺きの集落景観の保全」という課題に対するものですが、今後、克服しなければならない課題として「ワークショップの継続的な仕組みの確立」や「実行体制の構築」などが挙げられます。電源地域振興センターでは、こうした課題解決をお手伝いするためのメニューを用意しております。

単に「地域経済の活性化」と言っても、解決のためには地域問題の原因究明から、問題点の改善、将来に向けての推進計画策定、実際の事業化計画策定と多くの段階があります。

また、こうした計画づくりからの取り組みもあれば、ものづくりからの取り組みも盛んに行われています。特に近年は、地域資源を最大限に活用した特産品、ひいては地域そのもののブランド化に取り組みうとする動きも珍しくありません。

調査には、まず総合的・広域的な視点から地域振興を図る各種の計画づくりをする「計画策定調査」があります。次に、電源地域の物産・自然・文化資源などを最大限に活用した特産品開発に向けた調査があります。現状分析や、先行事例分析を踏まえて、開発企画・流通チャンネルの検討・生産・販売等の体制づくりを検討するとともに、事業化に向けた具体的提言を行うなどの「特産品ブランド形成調査」です。最後に、それ以外の「その他地域振興に関する調査」になります。調査は大きく分けてこの3つに分かれます。

しかし、これについても競合する産品や産地との明確な差別化、ブランド化へのプロセス、継続的なブランド価値向上策など、考慮しなければならぬポイントは多々あります。

電源地域振興センターでは、これまでの地域振興に関する豊富な調査経験を活かし、電源地域の活性化につながるべく、各種の調査を行い、地域の課題解決のための方策提言づくりなどの支援を行います。

どの調査テーマについても皆様が抱えている課題解決に向け、確実に取り組めるよう解決策を提案いたしますので、ぜひご活用ください。

■窓口は地域振興部 調査課
03-6672-7306
eメール: chousa@dengen.or.jp
となります。

お気軽にお問い合わせください。



組織体制変更のお知らせ

7月より組織体制を変更しましたのでお知らせします。今回の組織変更の目的は、電源市町村等の皆様からのご相談等をワンストップサービスでお応えできると、2部10課制に変更しました。詳しくはホームページをご覧ください。
 なお、ご不明な点等ございましたら振興業務課(☎03-6372-7305、shinkou@dengen.or.jp)までお問い合わせください。



理事長再任のお知らせ

6月13日(水)開催の第3回理事会において、新欣樹(現理事長)が、代表理事(理事長)に再任されたことをご報告します。任期は、平成26年6月に開催予定の評議員会の終結の時までです。



平成24年度下期 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業(通称、F補助金)の募集を開始します

F補助金は、原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、雇用の増加を生む企業に対して、一定期間にわたって、企業の支払った電気料金等に基づき、道府県が給付金を交付する制度です。
 当センターでは、道府県からの要請

を受けて交付事務・審査事務を行っています。平成24年度下期募集は、平成24年10月に行われる予定です。詳細は、募集時の「応募要領」をご覧ください。
 「応募要領」はホームページに掲載する予定です。

【問合せ】総務企画部 立地審査課
 ☎03-6372-7307
 ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/yuchi/yuchi01.html
 eメール：riti@dengen.or.jp



「企業誘致支援サービス」事業のご案内

当センターでは、電源市町村の企業誘致活動を支援する目的で「企業誘致支援サービス事業」を実施しています。この事業は、企業が原子力立地地域に事業所を新設、移転等した場合に電気料金的大幅な割引が受けられる制度(F補助金)を全国の企業に広く紹介することなど、約1万社の企業への立地意向アンケート調査を行いながら、

電源市町村への企業誘致をサポートさせていただくものです。
 今年度は24の自治体から事業を受託し、それら自治体に所在する工業団地等を、企業アンケートで紹介等しながら、自治体と企業との間を積極的に取り持つ活動を行っています。その一環として、9月11日(火)から4日間、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2012(主催：一般社団法人

日本産業機械工業会他6団体)」に出展し、来場された企業の方々等に自治体とF補助金のPRを積極的にさせていただきますました。

【問合せ】総務企画部 企業誘致課
 ☎03-6372-7308
 ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/yuchi/yuchi_00.html
 eメール：yuuchi@dengen.or.jp



定期開催型 第1回「産品相談・商談会」を開催しました

電源地域の特産品の開発・改良および販路拡大を目的に、流通関係者をアドバイザーとして招聘し、一対一で具体的なアドバイスを受ける機会を定期的に提供する「産品相談・商談会」を、平成24年6月22日(金)東京都中央区で開催しました。

今年度は第2回(大阪会場)を、9月28日(金)に、第3回(東京会場)を、11月8日(木)に開催します。現在、第3回の参加募集中です。詳細についてはホームページをご覧ください。
 第4回(福岡会場)については、来年の1月下旬〜2月上旬で調整しております。調整がつき次第募集を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。(参加料：基本¥10,000/3面談・事業者 オプション(追加面談・デザイン相談) ¥3,000/面談)

■現地開催型「産品相談・商談会」
 市町村や商工団体等の求めに応じ、

百貨店等のバイヤーを現地(地元)へ派遣し、参加者の時間的・費用的負担を軽減するとともに、実施後もバイヤーと相談・商談がしやすい関係が継続する現地開催型の産品相談・商談会をご案内いたします。特産品を製造・販売する事業者だけではなく、それに係わる地域の関係者を対象とした研修会や、製造のこだわり等をバイヤーに体感いただくための製造現場視察などを組み合わせることが可能です。

■随時開催型「産品相談・商談会」
 市町村や各事業者等の求めに応じ、首都圏出張等の機会に合わせて百貨店等のバイヤーとの面談を随時設け、開発・改良のアドバイスや、販路拡大に繋がる商談を行うことができます。(参加料：¥4,000/面談・事業者)
 *なお、現地型・随時型につきましては、常時募集をしております。

【申込み・問合せ】地域振興部 販売支援課
 ☎03-6372-7310
 ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
 eメール：msp@dengen.or.jp



第1回 産品試験販売 事業 岩田屋本店(福岡市)を開催しました

生産者が自ら出店し、消費者の生の声を聞くことができる産品試験販売事業を岩田屋三越 岩田屋本店 本館地下食品催事場において、平成24年7月4日(水)〜10日(火)の7日間開催しました。

今年度は第2回を東武百貨店池袋店において、平成24年9月13日(木)～19日(水)の7日間開催し、その他に東京云場・大阪会場・福岡会場等を計画しています。実施会場と調整がつき次第参加募集を行いますのでぜひご検討ください。
(参加料: ¥15,000/事業者)
【申込み・お問合せ】地域振興部 販売支援課
☎03-6372-7310
ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
eメール: mzp@dengen.or.jp



**研修のご案内
(人材育成事業)**

電源地域振興センターでは、平成2年度から電源地域の皆様を対象とした研修事業を実施し、これまで延べ約2万人の皆様にご受講いただいております。今年度も電源地域のニーズを踏まえ、新たなテーマを設定するなど、引き続き電源地域の長期的かつ自立的な振興支援をお手伝いします。

10～12月の研修につきましては、以下のとおりとなっておりますので、本研修事業を皆様の地域のまちづくりにぜひご活用ください。(各研修内容の詳細につきましては、ホームページをご覧ください)

【申込み・お問合せ】地域振興部 研修派遣課
☎03-6372-7300
ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
eメール: jinzai@dengen.or.jp

10～12月の研修(予定)

各定員: 25名

No.	分野	テーマ	月日	場所	申込み切	研修ポイント
2	減災 防災	災害に強いまちづくり ～これまでの災害の経験と教訓を踏まえて～	10月16日(火) ～17日(水)	【東京研修】 電源地域 振興センター	10月1日(月)	災害時での被害最小化を目指す「減災」にスポットをあて、今後の防災・減災対策を考える。
10	観光	地域ぐるみで進める観光まちづくり ～観光づくりを持続的に進める方策とは?～	10月31日(水) ～11月2日(金)	【現地研修】 長野県 飯山市	10月17日(水)	観光まちづくりの先進地で開催。「信州いいやま観光局」の活動や、着地型旅行運営の手法を学ぶ。
3	企業 誘致	企業誘致による地域活性化	11月15日(木) ～16日(金)	【東京研修】 科学技術館	10月31日(水)	専門家や企業経営者等、多彩な講師陣より、産業の動向や関連政策、企業誘致の実務ポイントを学ぶ。
4	農業	地域農業の活性化 ～所得向上・担い手対策等～	12月6日(木) ～7日(金) ※予定	【東京研修】 電源地域 振興センター	11月20日(火) ※予定	農業が元気になる、また農業をきっかけとして地域が元気になるための各種方策を学ぶ。

第3回「電気のあるさと」フォトコンテストを実施します!



賞および景品

- 最優秀賞: 1点 旅行券3万円分
 - 優秀賞: 2点 旅行券1万5千円分
- * 入選された作品は当センターのホームページ、「電気のあるさと～電源地域ニュース～」その他で紹介する予定です。

募集内容

テーマ: 「電気のあるさと」

- 皆様の暮らしを支える大切な電気。その電気のあるさとを訪れて、四季折々の自然風景、人々生活や祭事、その地域を象徴する風物など、電気のあるさとの魅力が表現された作品を募集します。
- 「電気のあるさと」とは、建設準備中・工事中・運転中の発電所等が所在する市町村とその周辺市町村のことです。

* 詳細は当センターのホームページ (<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>) 「電源地域とは」を参照ください。

応募方法

- カラーまたは白黒プリント、A4サイズとします。
- 必ず規定の応募用紙に必要事項を記載の上ご応募ください。
- 写真プリントは、応募用紙と必ずセットで送ってくだ

さい。

- 応募用紙は当センターのホームページよりダウンロードできます。
- お1人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

応募資格

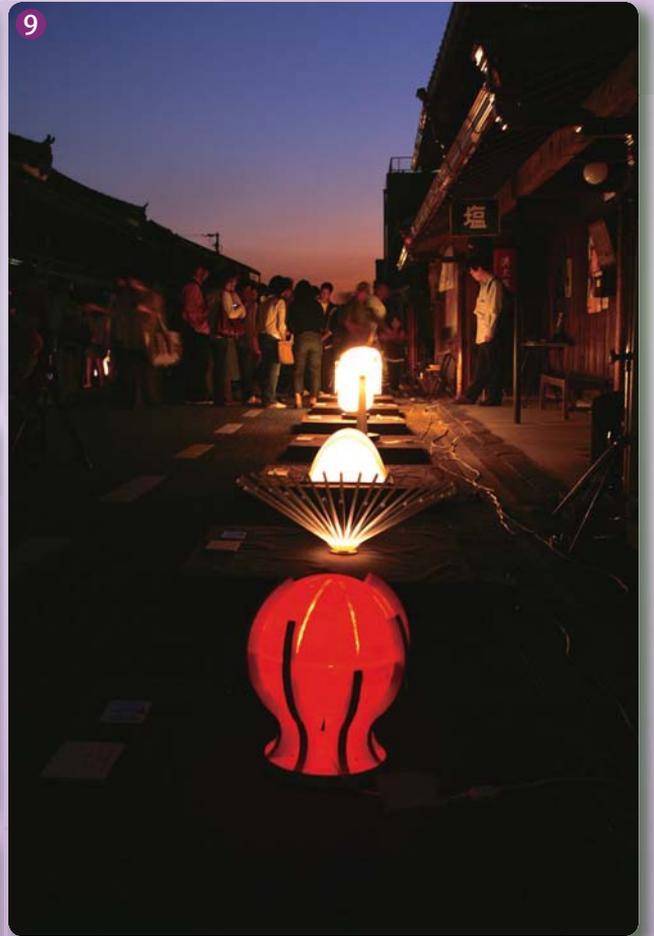
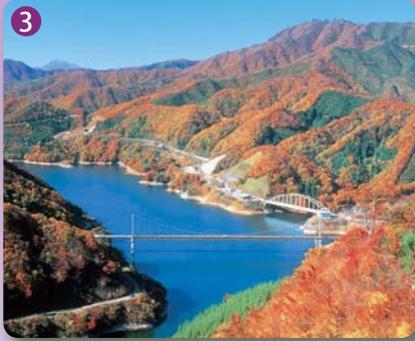
日本国内に在住の方に限らせていただきます。

受付期間

平成24年10月1日～平成25年3月31日(当日消印有効)。
必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。
* 注意事項他の詳細は当センターのホームページ (<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>) をご確認ください。

送付先・お問い合わせ先

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号
(堀留中央ビル7階)
(一財)電源地域振興センター 電気のあるさと編集室
TEL: 03-6372-7305 (平日10～17時)
FAX: 03-6372-7301
E-mail: furusato@dengen.or.jp



表紙：山梨県富士河口湖町

裏表紙：①いちき串木野市の「いちき串木野づくし産業まつり 地かえて祭り」 ②唐津市の「秋季例大祭 唐津くんち」 ③大野市の「九頭竜湖」 ④石巻市の「オーガッツ」の「そだての住民」ホタテ養殖作業イベント ⑤男鹿市の「男鹿梨まつり」 ⑥佐井村の「佐井のおさかなまつり」 ⑦東通村の「ひがしどおり新そば街道まつり」 ⑧二本松市の「二本松の菊人形」 ⑨美濃市の「美濃和紙あかりアート展」 ⑩石巻市の「オーガッツ」の皆さん